

第19回 自動車整備技術の高度化検討会

議事次第

日時：令和元年10月3日（木）15:30～17:30

場所：AP 虎ノ門 11F 会議室 B

1. 開会

2. 議事

- (1) 自動車整備士資格制度等見直し WG の設置について
- (2) 自動車整備技術の高度化検討会中間とりまとめ（案）について
- (3) その他

3. 閉会

<配付資料>

- ・ 委員名簿
- ・ 資料 1 自動車整備士資格制度等見直し WG について
- ・ 資料 2 自動車整備技術の高度化検討会中間とりまとめ（案）
- ・ 資料 3 今後のスケジュール（案）
- ・ 参考資料 議事概要（案）（第18回高度化検討会）

自動車整備技術の高度化検討会委員名簿

【座長】

須田 義大 東京大学 生産技術研究所 教授

【委員】

古川 修 芝浦工業大学 名誉教授

中村 渉 一般社団法人日本自動車工業会 流通委員会サービス部会 委員

黒田 卓也 一般社団法人日本自動車工業会 流通委員会サービス部会 委員

寺島 友義 日本自動車輸入組合 アフターセールス委員会 委員

碓 孝浩 日本自動車輸入組合 参与・技術部長

高橋 徹 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 教育・技術部 部長

唯根 健一 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 教育・技術部 教材課長

平塚 睦子 日本自動車車体整備協同組合連合会 副会長

藤原 一也 一般社団法人日本自動車機械器具工業会 故障診断分科会 分科会長

高橋 正彦 一般社団法人日本自動車機械工具協会 流通部会 委員

本廣 好枝 全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事

長谷川達也 全国自動車短期大学協会 専門委員

永井 啓文 独立行政法人自動車技術総合機構 企画部 部長

藤井 洋 軽自動車検査協会 検査部 検査担当部長

【国土交通省自動車局】

平井 隆志 整備課長

野中 秀紀 点検整備推進対策官

関 伸也 課長補佐

田辺 剛敏 課長補佐

井原 拓真 専門官

(順不同・敬称略)

自動車整備士資格制度等見直しWGについて

1. 趣旨

近年、自動車技術の進化がめざましく、自動ブレーキやレーンキープアシストなどの様々な先進安全技術や運転支援技術が実用化され市販車に搭載されています。また、自動運転技術は、高度かつ複雑なセンシング装置と電子制御装置で構成されており、これらの装置が故障した場合等には、期待された機能が発揮されないばかりか、誤作動等につながる恐れもあることから、使用過程時の機能維持を図ることが安全上重要である。

このため、自動車の整備・検査が、先進技術を搭載した自動車に対応していくため、自動車の点検整備・検査について、制度、設備・機器、人材などの全方位から高度化を図る必要がある。

国土交通省としても、こうした先進技術に対応するため、平成23年度に「自動車整備技術の高度化検討会」を立ち上げ、新たな技術に対する整備のあり方について様々な角度から論議しており、また、平成29年12月から「車載式故障診断装置を活用した自動車検査手法のあり方検討会」を開催し、先進安全技術については2021年以降の新型車を対象に2024年からOBDを活用した検査の導入を想定しているところ。

加えて、第198回国会（常会）において、先進技術の整備を行う工場に一定の能力を義務付ける「特定整備工場」の認証制度の創設や、自動車メーカーに対して整備マニュアルの提供を義務付けること等を内容とする改正道路運送車両法が5月24日に公布され、1年以内に施行されることとなっている。

このような変化を踏まえつつ、かつ、急速に進歩する自動車技術に適切に対応するため、ユーザーに変わって自動車の安全を保守する自動車整備士の資格体系や養成課程の見直しなどを行う必要があることから、自動車整備技術の高度化検討会の傘下として、自動車整備士資格制度のあり方等について論議するための自動車整備士資格制度等見直しWGを設置する。

2. WGでの論議事項

- 1) 自動車整備士資格の種類について
- 2) 自動車整備士資格における受験資格について
- 3) 自動車整備士の養成課程カリキュラムについて
- 4) 自動車整備士の試験について
- 5) 今後の進め方について
- 6) その他

3. WGの開催

- 1) 2020年（令和2年）半ばまで年4～5回開催することとする。
- 2) WGメンバーが必要と認める場合には、メールにより議論を行う。

自動車整備士資格制度等見直しWGメンバーリスト（案）

（順不同）

一般社団法人日本自動車整備振興会連合会

一般社団法人日本自動車工業会

一般社団法人日本自動車販売協会連合会

全国自動車大学校・整備専門学校協会

全国自動車短期大学協会

全国自動車研究会

日本自動車輸入組合

日本自動車車体整備協同組合連合会

全国自動車電装品整備商工組合連合会

全国タイヤ商工協同組合連合会

（事務局）

国土交通省 自動車局 整備課

今後のスケジュール（案）

10月3日 第19回 自動車整備技術の高度化検討会

中間取りまとめ（案）パブリックコメント

11月5日 第20回 自動車整備技術の高度化検討会

中間取りまとめ公表

～5月まで 施行

※ 経過措置（認証）は4年間

第 18 回 自動車整備技術の高度化検討会 議事概要

【日 時】

令和元年 9 月 3 日（火）10：00～12：00

【場 所】

航空会館 201 会議室

1. 新たな標準仕様推進 WG（資料 1）

【報告概要】

- 令和元年度の活動方針と期待する成果、WG の今後一年間の進め方、WG のまとめを報告

《令和元年度の活動方針と期待する成果》

- 平成 29 年、30 年と継続してきたスキャンツール開発のための情報等提供の運用ルールの策定については昨年度までに完了。本年度はこれらのルールの施行状況の確認とツールメーカーと車両メーカー間の情報提供に関する契約・開発状況の確認を行い、そのような活動を通して、運用ルールの定着や汎用スキャンツールの開発促進を図る。

《WG の進め方》

- 昨年度までと同様、議長を自機工が務め、国交省、日整連、自工会、自機工で活動。
- 三つの大日程を提示。第一段階としては運用ルールの施行、現在車両メーカーの方で修正している契約書の修正が 10 月で完了する予定に伴い、その運用ルールの適用状況を確認。第二段階はツールメーカーの開発ステージとしてツールメーカー側の開発の進捗状況の調査を進める。その中で抽出された課題・論点等について標準仕様 WG の中で対応策を議論していくことが第三段階で、その結果によってはルールブックの変更や見直し等も想定。WG については 1.5 カ月に一度、3 カ月に平均二回くらいのペースで実施し、進捗状況の確認や課題の整理を進めていきたい。

《まとめ》

- これまでに策定した情報提供の運用ルールの定着を図り、スキャンツール開発促進のための施策を行うなかで、ルール適用状況や、ツールメーカーの開発の状況、契約状況の確認を実施する。
- ◆ 質疑応答
特になし。

2. 高度診断教育 WG からの報告（資料 2）

【報告概要】

- 高度診断教育 WG の報告及び今後の予定を報告

《これまでの流れ》

- 前回報告からの変更無しにつき割愛

《地方振興会における会員事業者向け ADAS 研修会》

- 令和元年度における開催予定の研修会としては、スキャンツール活用研修及び ADAS 研修それぞれで 207 回を予定。実施予定の振興会は 10 であるが、7 月末までに開催したのは 6 振興会。その理由は、法定研修及び日整連で実施予定の技能競技大会の地区大会の影響によるもの。
- 実施後の感想としては、特に特定整備に関する不安として作業場の面積等についての懸念が多かった。また、本来であれば 2 日間の予定が 1 回のみで開催など、参加者の応募が少なかった事例も見られた。これは、標準仕様のスキャンツールの中で対応可能なのは特定のメーカーの一部のみであり、他のメーカーでは実施できないことがネックになっている。
- ADAS 研修会に参加者が集まらないという事情は、地方ほどその傾向が見られ、スキャンツールや専用機器等、現状はメーカー別にバラバラになっているため、全て振興会で揃えて実施することは難しい。

《ADAS 研修等における今後の検討課題と対応案》

- これらの課題に対する対策として、定期的に行っている出席者の多い別研修と同時に実施する。あるいは 2021 年度の整備主任者技術研修をエーミング調整（小型車）の内容で実施する。
- スキャンツール及び専用機器等の整備については、標準仕様 WG と協力しながら、SST の共通化、流用性を検討する。

《今後の予定、スケジュール》

- 今後の予定として、現在実施しているレーザー方式車両での事業者向け研修会の開催を継続して実施する。それ以外の課題については、分析を継続する。また、ミリ波レーダーを使用した車に関しては標準仕様 WG と並行して進めていく。
- 質疑応答

※質疑議事概要参照

3. 特定整備制度の検討（非公開）

質疑概要

1. 新たな標準仕様推進 WG からの報告

特になし。

2. 高度診断教育 WG からの報告

発言者	内容
国交省 (井原)	昨年度行った研修の分析をしているが、必要がない研修を実施するのも良くない。逆に、ADAS 研修のうちどれが特定整備になるのか分からないという意見が多い中、特定整備を導入した際に、知らず知らずのうちに認証行為をしてしまうということもあるので、次年度の研修をどうするかを考えていただきたい。
日整連 (唯根)	承知した。今後も継続して検討していきたい。

3. 特定整備制度の検討（非公開）

発言者	内容
	資料に秘匿情報も含まれるため、委員の総意により非公表となった。